

学校教育目標		中・長期的目標	総合評価					
○自主性を養う。 (願う生徒の姿) 自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる生徒	挨拶の行き交う学校に 清掃に打ち込む学校に 学習に集中する学校に	歌声の響く学校に 時を守る学校に 読書に親しむ学校に	学校教育目標「自主性を養う」、生徒会スローガン「CON-TRAST ～やる気 元気 活気と個性あふれる生徒会に」のもと、日々の教育活動に取り組んできた。挨拶や清掃、合唱の向上に取り組むとともに、生徒のアイデアや想像力を生かした生徒会活動を企画・実施した。また、日々の授業や様々な生徒支援・生活指導を通して、学力向上や時間を守ること、図書館の利用増等に取り組んだ。その結果、昨年度に比べて向上した面があり、一定程度の成果を収めることができた。一方で、様々な理由から学校生活に困難を抱えたり、不登校の状態になったりする生徒がいる。引き続き、来年度も、さらなる授業と学級・学年・学校運営の向上を目標として、保護者や地域の方々と連携しながら、多様な個性や必要感をもつ生徒に対してきめ細かな支援を行っていく。					
	令和7年度 学校重点目標		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	①生徒の「主体的・対話的な学び」や「個別最適な学び」を保障し、知識や技能を活用する力を育成する	②すべての生徒が自分らしく生活できる学年・学級づくりに努める	③保護者や学校運営委員、地域と協働して学校運営を進める(地域の大人に学ぶ)	○80%以上の生徒が、授業に前向きに取り組んでいる。 ○70%～90%の生徒がスイッチや家庭学習を通して自主的に学習に取り組んでいる。 ○80%以上の生徒が、「学校は楽しい」と感じ、学校生活に前向きに取り組んでいる。 ○80%以上の保護者の方が学校開放日や三中体験授業等を通して学校への理解や関心が高まってきている。 ◆「学校が楽しい」「安全・安心な環境ではない」と感じている生徒がいる。 ◆保護者の方々や地域の方々の中に更なる授業改善や学校生活の改善を求める方がいる。	○	○		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題(成果○ 課題◆)	A	B	C	D	改善策・向上策
学校教育	学習指導	学習課題の明確化	本校では、学習課題が明確に示され、全体的にわかりやすい授業が行われているか。	○どの学年でも、「分かりやすい」「おおよそ分かりやすい」と答える生徒が多く、「やや分かりにくい」「分かりにくい」と答える生徒が減り、1割以下である。 ◆「やや分かりにくい」「分かりにくい」と回答した保護者が後期にやや増えた学年がある。		○			・学習課題を明確に示す等、引き続き授業改善に取り組む。教師が互いに授業を見合う機会を設け、指導主事の先生方や外部講師に指導を仰ぐ機会を設けたりする。また授業研修といった各種研修に参加し、教員としての指導力の向上を目指していく。年度の終わりには定着を確かめるのに行き、まとめを丁寧に行っていく。
		家庭学習の定着	本校では、家庭学習やJIGAKU・ASAGAKU・スイッチなど、生徒が自主学習に取り組むための指導はできているか。	○どの学年においても、自主学習に取り組む生徒が多い。 ○「スイッチ」では熱心に学ぶ姿が多く見られた。また丁寧な指導して下さる学習ボランティアの方のご指導に感謝している。 ◆1学年の保護者の「自主学習に取り組むための指導」について「あてはまる」の回答が減った。		○			・各教科において、家庭学習の方法を的確に指導する。個別最適な家庭学習を目指して家庭での学習習慣の形成を目指す。 ・スイッチ、ASAGAKU、JIGAKUへの取り組みを指導・助言する。
		ICTを活用した授業づくり	本校では、生徒の話し合い活動やICT機器を生かした深い学びを実現できているか。	○全校の90%以上の生徒が「ICT機器で学びを深めている」と回答している。 ◆ICT機器の活用の仕方やルールがまだ完全に定着している状態ではない。 ◆ICT機器の、授業での活用の仕方には指導者によりやや差がある。		○			・効果的なICT機器の活用の仕方を各教科で模索・活用し、学力向上につなげる。引き続き、情報係が中心となりICT機器活用に関する研修を行う。
		進路学習	各学年の生徒の実態に応じて進路学習(1年:地域学習 2年:職場体験 3年:進路学習)を行っているが、生徒が将来の進路について考えることに役立っていると思うか。	○全校の80%以上の生徒が「進路について考えたり学んだりする機会がある」と回答している。 ○保護者の80%が学校の進路学習が役立っていると感じている。 ◆保護者の1割強の方が「あまりそう思わない」と回答している。		○			・総合的な学習の時間で、生き方考えることを含めた進路学習になるよう目標・学習内容を確認し、年間計画に沿って学習を進める。1学年「地域を知る」2学年「地域に学ぶ」3学年「地域に貢献する」のテーマで学習を進めている。学習内容を生徒と共に構想し実施する。
	生活・生徒指導	基本的な生活習慣の確立	本校生徒は充実した(楽しい)学校生活を送っていると思うか。	○「学校が楽しい」と答える生徒が前期、後期共に8割以上である。 ○8割以上の保護者が子どもが「楽しく学校生活を送っている」と回答している。 ◆どの学年においても「やや楽しくない」「楽しくない」と回答した生徒がいる。		○			・生徒の成長につながる、意図的な学級経営、教育相談を継続していく。保護者と丁寧な連絡をとる。学校生活における生徒の変化について職員で確認していく。
		気持ちのよい挨拶	本校生徒は、気持ちのよい挨拶や会釈ができていると思うか。	○「気持ちのよい挨拶ができている」と答えた生徒の割合は80%以上だった。 ○保護者の70%以上が「気持ちのよい挨拶ができている」と回答している。また地域の方々からも、挨拶の様子をほめていただくことがある。 ◆校内における挨拶がもう一歩というご意見もいただいた。		○			・生徒会活動における「アイ活」(挨拶活動)を今後も行い挨拶状況の向上を目指す。生徒会の取り組みを継続する共に職員が自ら挨拶をすることを実行する。PTAの方に一緒に挨拶活動をしていただいた。無理なく協力いただけるとありがたい。
		清掃・環境整美への取り組み	本校の教室や校舎内は、きちんと清掃し、整理整頓されていると思うか。	○9割以上の生徒が「清掃に一生懸命取り組み教室や校舎内が整理整頓されている」と回答している。 ○保護者の9割以上の方が「教室や校舎内がきちんと清掃され整理整頓されている」と回答している。 ◆ロッカーの整理整頓にやや課題がある。また、生徒や場面により取り組みに差がある。		○			・「時間いっぱい」「隅々まで」清掃をする意識を全生徒にもたせるよう、生徒会活動と一緒に取り組んだ。縦割り清掃が効果的だった。今後もよい姿を伸ばしていけるよう継続する。
		安全で安心できる学校	学校生活は安心・安全(過ごしやすく・危険がない)な環境であると思うか。	○「安心・安全な学校である」と答える生徒が8割以上だった。 ○「安心・安全な学校である」と答えた保護者の方は9割以上だった。 ◆肯定的に答えた生徒の割合に変化がなかった。1学年で「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が減少した。		○			・全職員による生徒支援・生活指導・生徒指導により、生徒にとって過ごしやすく危険がない学校を今後も目指していく。施設や物品の破損や危険箇所は迅速に改善する。学級・学年経営、道徳、日常の指導で、的確に指導・支援する。
学校運営	思いやりの心	本校生徒は思いやりのある行動ができていると思うか。	○生徒、保護者ともに、肯定的な評価の割合が8割以上である。 ◆「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の回答の割合が0ではない。		○			・「思いやりのある行動ができている」と答える生徒が多いので、今後も実践につながるよう支援と指導を継続する。一方、時により傷ついている生徒がいる。適時的に的確な指導をしたり、効果的に指導できるよう職員が情報を共有したりする。	
	時間・服装などの決まりを守った生活	本校生徒は登下校時刻を守り、整った服装を心がけ、健康状態に気を配るなど、自身の学校生活を自己管理していると思うか。	○80%以上の生徒は服装や健康、時間に気を配り行動していると感じている。 ○9割近くの保護者が肯定的に評価している。 ◆指導を繰り返す必要がある生徒がいる。継続して指導と支援をする。		○			・「学校のきまり」を年度当初に職員間で共有して指導を徹底する。年度当初に行う生活オリエンテーションを効果的に行う。また、「自主性を養う」ことにつながるよう、意義や方法をあわせて伝えていく。生徒会と連携し、年間を通して継続して指導する。	
	生徒会活動	資源回収や当番活動などの生徒会活動は、自主的で有意義なものになっていると思うか。	○9割以上の生徒が生徒会活動に自主的に参加していると回答している。また、7割以上の生徒が、地域や社会への貢献について肯定的に回答している。 ◆収集活動、奉仕、ボランティア活動への取り組みは生徒や場面により差がある。		○			・生徒会活動を中心に、意義のある活動を企画する。その際、地域の方や保護者に協力を求めたり、地域に貢献できる活動を行ったりすることもある。生徒がさらに自主的に取り組めるような生徒会活動を目指し、協力をおこぐ。	
	部活動	【本校生徒が部活動に参加しているご家庭のみ】本校生徒にとって部活動は、自主的かつ充実したものになっていると思うか。	○生徒も保護者も、肯定的な回答の割合が9割以上である。 ◆地域展開の完全実施に向けて、心身の向上や人間関係の向上の機会としてスムーズにつなげられるよう指導していく。		○			・スムーズに地域展開につなげられるよう、放課後の過ごし方等を検討していく。また、心身や人間関係の向上の指導機会を様々な場面で充実させる。	
保護者・地域との連携	学校開放日・体験入学等の実施	年3回の学校開放日や体験授業(新入生)等を通して、本校への理解や関心を高めてもらうことができたか。	○体験授業では小学生の中学生活への不安の軽減につなげた。また中学校説明会では、1学年生徒が丁寧に進んで、趣向を凝らした発表と演出をし、小学6年生(新入生)の中学校生活への期待感を高めた。 ○保護者の方々からも、肯定的な回答を多くいただいた。 ◆開放日の保護者の方の出席がやや少ない。		○			・より多くの保護者や地域の方々に来校いただき、本校の教育活動にご理解とご協力をいただけるよう、日時を確実にお知らせしたり、日々の教育活動を充実させたりする。また、丁寧な情報提供に努める。	
	情報の発信	学校だよりや学年学級だより、ホームページ等を通して情報提供し本校の取組に関心を高めてもらうことができたか。	○保護者や地域の方から、肯定的な回答を多くいただいた。 ◆「クラスの様子が伝わってこない」という保護者の意見があった。		○			・ホームページや学校だよりにより学校の様子を載せている。今後も継続していく。あわせて、学級通信・学年通信で学校の様子をお伝えしていく。	
	地域との連携推進	地域と連携し、学習活動や生徒支援を工夫することができたか。【「三中応援団」、学生ボランティアの活用】	○放課後の学習「スイッチ」に参加し、学習習慣の形成につながった生徒の様子があった。「三中応援団」の方のご指導がありがたかった。助言の内容を指導に生かすことができた。 ◆「スイッチ」や朝学習「JIGAKU」への取り組みが生徒や場面により差がある。		○			・朝学習「ASAGAKU」を全クラスで行うことを継続し、三中応援団の学習ボランティアからいただいた助言を生徒に伝え学力向上を目指す。放課後学習「スイッチ」での協力も含め、三中応援団の方々幅広く連携していく。	